



クロスオーバー

234XS/223XS

取扱説明書

お買い上げいただき、誠にありがとうございます。
安全に正しくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。
この取扱説明書は、お読みになった後も、いつでも見られるところに保管してください。

■安全上のご注意

取扱説明書には、お使いになる方や他の人への危害と財産の損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくために、重要な内容を記載しています。以下の注意事項をよくお読みの上、正しくお使いください。

注意事項は危険や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った扱いをすると生じることが想定される内容を次の定義のように「警告」「注意」の二つに区分しています。



警告

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。



注意

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される内容です。



警告

- 水に入れたり、ぬらさないでください。火災や感電の原因になります。
- AC100V 50/60Hzの電源で使用してください。これ以外の電源では、火災や感電の原因となります。
- 必ず専用の電源コードを使用してください。これ以外のものを使用すると火災の原因となります。また、電源コードは他の製品には使用しないでください。
- 電源コードの上に重い物をのせたり、熱器具に近づけたり、無理に引っ張ったりしないでください。コードが破損して火災や感電の原因になります。電源コードが傷んだら（断線や芯線の露出など）、直ちに使用を中止し販売店に交換をご依頼ください。
- 水が入った容器や金属片などを、機器の上に置かないでください。こぼれたり、中に入ったりすると、火災や感電の原因となります。
- 万一、落したり筐体を破損した場合は、直ちに使用を中止し、修理を依頼してください。そのまま使用すると、火災の原因となります。
- 雷が鳴り出したら、金属部分や電源プラグに触れないでください。感電の恐れがあります。
- 煙がでる、異臭がする、水や異物が入った、破損した等の異常がある時は、ただちに電源プラグをコンセントから抜き、修理を依頼してください。異常状態のまま使用すると、火災や感電の原因となります。
- 分解や改造は行わないでください。お客様が保守できる部品は、内部にはありません。分解や改造は保証期間内でも保証の対象外となるばかりでなく、火災や感電の原因となります。



注意

- 不安定な場所に設置しないでください。落下によるけがの原因となります。
- 以下のような場所に設置しないでください。
 - 直射日光の当たる場所
 - 温度の特に高い場所、または低い場所
 - 湿気の多い場所
 - ほこりの多い場所
 - 振動の多い場所
- 機器をラックに設置する場合は、必ず専用のラックマウント金具を使用し、重量を支えるために全てのネジをしっかりと固定してください。落下すると、けがや器物を破損する原因となります。
- 配線は、電源コードを抜いてから説明書に従って正しく行ってください。電源コードを差し込んだまま配線すると、感電する恐れがあります。また、誤配線によるショート等は火災の原因となります。
- 電源を入れる前に、音量を最小にしてください。突然大きな音が出て聴覚障害などの原因となります。
- 機器の移動は、電源プラグをコンセントから抜き、他の機器との接続を全て外してから行ってください。
- ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- 電源プラグを抜くときに、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき火災や感電の原因となります。
- ご使用にならない時は、電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。

■目次

はじめに	3
各部の名称と機能	4
234XS 前面パネル	4
ステレオ 2 ウェイモード	4
ステレオ 3 ウェイモード	5
モノラル 4 ウェイモード	6
223XS 前面パネル	7
ステレオ 2 ウェイモード	7
モノラル 3 ウェイモード	8
背面パネルと基本的な接続方法	9
トラブルシューティング	11
仕様	11

■はじめに

このたびは dbx 234XS、223XS クロスオーバーをお買い上げいただきありがとうございます。

この冊子は本機の全機能をご理解いただくための取扱説明書です。

機能についてご理解いただいた上で、本機を実際に操作して、
様々な用途に応じた最適な使い方を追求することをお勧めいたします。

■ 234XS、223XS の概要

以下に 234XS、223XS の主な機能をご紹介します。

- 背面パネルのボタンでクロスオーバーの動作モードを選択
- 背面パネルのボタンでクロスオーバーの周波数レンジの切り替えが可能
- 動作モードと周波数レンジの設定状態を表示する前面パネルの LED
- モノラルサブウーファー用の出力を利用可能
- 全ての出力に極性反転ボタンを装備
- 全ての出力のレベルは独立して調整可能

■梱包内容の確認

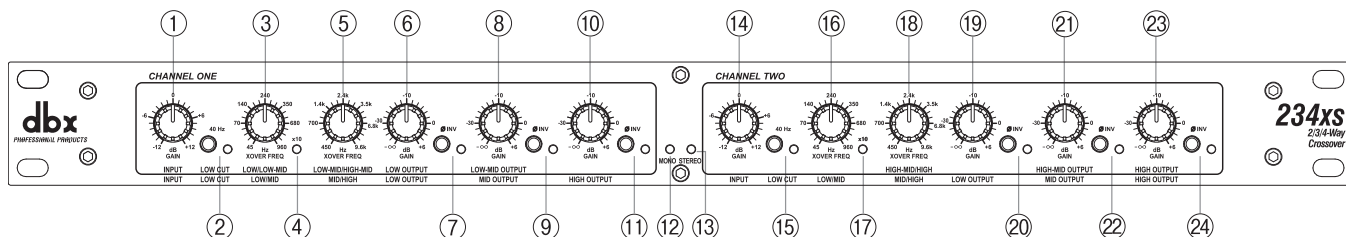
梱包を開けたら、まず次のものが入っていることを確認してください。

- クロスオーバー本体
- AC 電源ケーブル
- 和文取扱説明書
- 保証書
- 英文取扱説明書

万一足りないものがございましたら、お手数ですが、購入された販売店にご連絡ください。

■各部の名称と機能

234XS 前面パネル



234XS はステレオ 2 ウェイモード、ステレオ 3 ウェイモード、モノラル 4 ウェイモードの 3 つの動作モードを選択できます。動作モードの設定は背面パネルのスイッチで行います。設定方法は 9 ページの「背面パネルと基本的な接続方法」を参照してください。

234XS :ステレオ 2 ウェイモード

ステレオモード時の各つまみに対応するバンド等の名称は、つまみの下に引かれた青色の直線の下側の表示を読みます。ステレオモードではチャンネル 1 と 2 は独立して設定されます。下記に記載されている以外の操作部はステレオモードでは使用しません。

1,14 INPUT GAIN つまみ

入力レベルを± 12dB の範囲で調整します。

2,15 LOW CUT ボタン

40Hz、12dB/oct のハイパスフィルターを入力に挿入します。動作中は赤色の LED が点灯します。

3,16 LOW/MID XOVER FREQ つまみ

低域バンド (LOW) と高域バンド (HIGH) を分けるクロスオーバー周波数を設定します。

注意: つまみの名称は LOW/MID となっていますが、ステレオ 2 ウェイモードでは低域バンド (LOW) と高域バンド (HIGH) の操作つまみとなります。

4,17 × 10 LED

背面パネルの周波数レンジ切り替えボタンの状態が表示されます。この緑色の LED が点灯している時は、LOW/MID つまみで調整されるクロスオーバー周波数の範囲は 450Hz ~ 9.6kHz となります。

6,19 LOW OUTPUT GAIN つまみ

低域バンド (LOW) の出力レベルを $-\infty$ (−無限大) ~ +6dB で調整します。

7,20 INV ボタン

ボタンを押すと低域バンド (LOW) の出力の極性が逆相になります。動作中は赤色の LED が点灯します。

10,23 HIGH OUTPUT GAIN つまみ

高域バンド (HIGH) の出力レベルを $-\infty$ (−無限大) ~ +6dB で調整します。

11,24 INV ボタン

ボタンを押すと高域バンド (HIGH) の出力の極性が逆相になります。動作中は赤色の LED が点灯します。

13 STEREO LED

ステレオモード時、この LED が緑色に点灯します。

234XS :ステレオ 3 ウェイモード

ステレオモード時の各つまみに対応するバンド等の名称は、つまみの下に引かれた青色の直線の下側の表示を読みます。ステレオモードではチャンネル 1 と 2 はそれぞれ独立して設定されます。このモードで使用されない機能の LED インジケータは点灯しません。

1,14 INPUT GAIN つまみ

入力レベルを± 12dB の範囲で調整します。

2,15 LOW CUT ボタン

40Hz、12dB/oct のハイパスフィルターを入力に挿入します。動作中は赤色の LED が点灯します。

3,16 LOW/MID XOVER FREQ つまみ

低域バンド (LOW) と中域バンド (MID) を分けるクロスオーバー周波数を設定します。

4,17 × 10 LED

背面パネルの周波数レンジ切り替えボタンの状態が表示されます。この緑色の LED が点灯している時は、LOW/MID XOVER FREQ つまみで調整されるクロスオーバー周波数の範囲は 450Hz ~ 9.6kHz となります。

5,18 MID/HIGH XOVER FREQ つまみ

中域バンド (MID) と高域バンド (HIGH) を分けるクロスオーバー周波数を設定します。

6,19 LOW OUTPUT GAIN つまみ

低域バンド (LOW) の出力レベルを $-\infty$ (−無限大) ~ + 6dB で調整します。

7,20 INV ボタン

ボタンを押すと低域バンド (LOW) の出力の極性が逆相になります。動作中は赤色の LED が点灯します。

8,21 MID OUTPUT GAIN つまみ

中域バンド (MID) の出力レベルを $-\infty$ (−無限大) ~ + 6dB で調整します。

9,22 INV ボタン

ボタンを押すと中域バンド (MID) の出力の極性が逆相になります。動作中は赤色の LED が点灯します。

10,23 HIGH OUTPUT GAIN つまみ

高域バンド (HIGH) の出力レベルを $-\infty$ (−無限大) ~ + 6dB で調整します。

11,24 INV ボタン

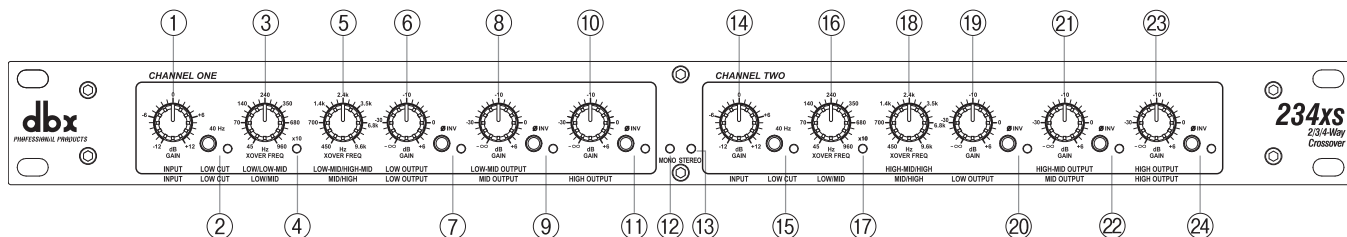
ボタンを押すと高域バンド (HIGH) の出力の極性が逆相になります。動作中は赤色の LED が点灯します。

13 STEREO LED

ステレオモード時、この LED が緑色に点灯します。

■各部の名称と機能 つづき

234XS 前面パネル



234XS :モノラル 4 ウェイモード

モノラルモード時の各つまみに対応するバンド等の名称は、つまみの下に引かれた青色の直線の上側の表示を読みます。下記に記載されている以外の操作部はモノラル 4 ウェイモードでは使用しません。このモードで使用されない機能の LED インジケータは点灯しません。

1 INPUT GAIN つまみ

入力レベルを± 12dB の範囲で調整します。

2 LOW CUT ボタン

40Hz、12dB/oct のハイパスフィルターを入力に挿入します。動作中は赤色の LED が点灯します。

3 LOW/LOW-MID XOVER FREQ つまみ

低域バンド (LOW) と中低域バンド (LOW-MID) を分けるクロスオーバー周波数を設定します。

4 × 10 LED

背面パネルの周波数レンジ切り替えボタンの状態が表示されます。この緑色の LED が点灯している時は、LOW/LOW-MID XOVER FREQ つまみで調整されるクロスオーバー周波数の範囲は 450Hz ~ 9.6kHz となります。

5 LOW-MID/HIGH-MID XOVER FREQ つまみ

中低域バンド (LOW-MID) と中高域バンド (HIGH-MID) を分けるクロスオーバー周波数を設定します。

18 HIGH-MID/HIGH XOVER FREQ つまみ

中高域バンド (HIGH-MID) と高域バンド (HIGH) を分けるクロスオーバー周波数を設定します。

6 INV ボタン

ボタンを押すと低域バンド (LOW) の出力の極性が逆相になります。動作中は赤色の LED が点灯します。

8 LOW-MID OUTPUT GAIN つまみ

中低域バンド (LOW-MID) の出力レベルを $-\infty$ (−無限大) ~ +6dB で調整します。

9 INV ボタン

ボタンを押すと中低域バンド (LOW-MID) の出力の極性が逆相になります。動作中は赤色の LED が点灯します。

21 HIGH-MID OUTPUT GAIN つまみ

中高域バンド (HIGH-MID) の出力レベルを $-\infty$ (−無限大) ~ +6dB で調整します。

22 INV ボタン

ボタンを押すと高-中域バンド (HIGH-MID) の出力の極性が逆相になります。動作中は赤色の LED が点灯します。

23 HIGH OUTPUT GAIN つまみ

高域バンド (HIGH) の出力レベルを $-\infty$ (−無限大) ~ +6dB で調整します。

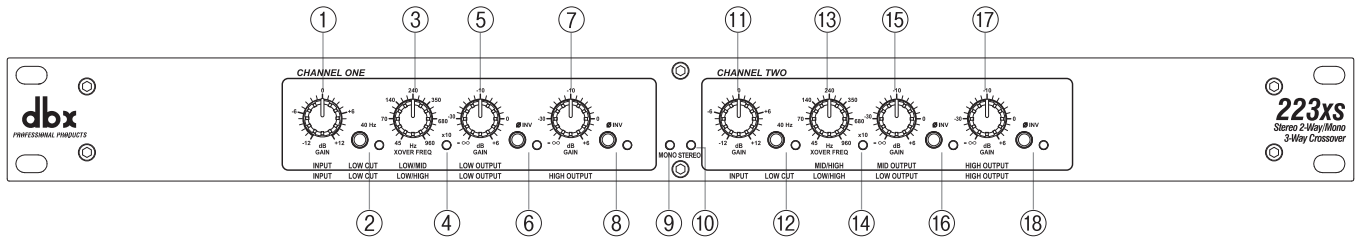
24 INV ボタン

ボタンを押すと高域バンド (HIGH) の出力の極性が逆相になります。動作中は赤色の LED が点灯します。

12 MONO LED

モノラルモード時、この LED が黄色に点灯します。

223XS 前面パネル



223XS はステレオ 2 ウェイモード、モノラル 3 ウェイモードの 2 つの動作モードを選択できます。動作モードの設定は背面パネルのスイッチで行います。設定方法は 9 ページの「背面パネルと基本的な接続方法」を参照してください。

223XS :ステレオ 2 ウェイモード

ステレオモード時の各つまみに対応するバンド等の名称は、つまみの下に引かれた青色の直線の下側の表示を読みます。ステレオモードではチャンネル 1 と 2 はそれぞれ独立して設定されます。このモードで使用されない機能の LED インジケーターは点灯しません。

1,11 INPUT GAIN つまみ

入力レベルを± 12dB の範囲で調整します。

2,12 LOW CUT ボタン

40Hz、12dB/oct のハイパスフィルターを入力に挿入します。動作中は赤色の LED が点灯します。

3,13 LOW/HIGH XOVER FREQ つまみ

低域バンド (LOW) と高域バンド (HIGH) を分けるクロスオーバー周波数を設定します。

4,14 × 10 LED

背面パネルの周波数レンジ切り替えボタンの状態が表示されます。この緑色の LED が点灯している時は、LOW/HIGH つまみで調整されるクロスオーバー周波数の範囲は 450Hz ~ 9.6kHz となります。

5,15 LOW OUTPUT GAIN つまみ

低域バンド (LOW) の出力レベルを $-\infty$ (−無限大) ~ + 6dB で調整します。

6,16 INV ボタン

ボタンを押すと低域バンド (LOW) の出力の極性が逆相になります。動作中は赤色の LED が点灯します。

7,17 HIGH OUTPUT GAIN つまみ

高域バンド (HIGH) の出力レベルを $-\infty$ (−無限大) ~ + 6dB で調整します。

8,18 INV ボタン

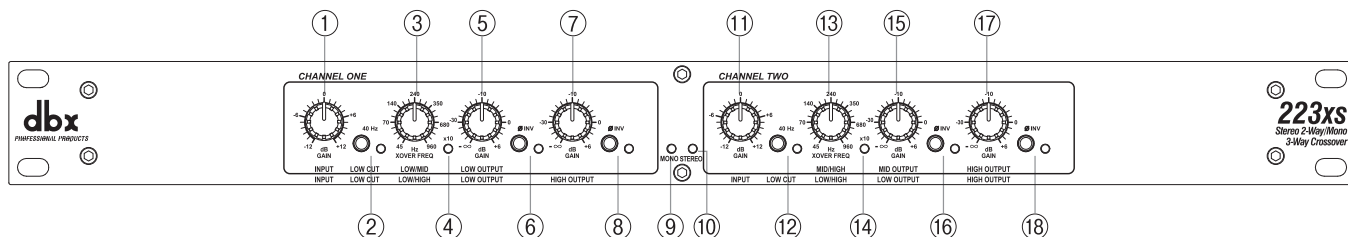
ボタンを押すと高域バンド (HIGH) の出力の極性が逆相になります。動作中は赤色の LED が点灯します。

10 STEREO LED

ステレオモード時、この LED が緑色に点灯します。

■各部の名称と機能 つづき

223XS 前面パネル



223XS :モノラル 3 ウェイモード

モノラルモード時の各つまみに対応するバンド等の名称は、つまみの下に引かれた青色の直線の上側の表示を読みます。下記に記載されている以外の操作部はモノラル 3 ウェイモードでは使用しません。このモードで使用されない機能の LED インジケータは点灯しません。

1 INPUT GAIN つまみ

入力レベルを± 12dB の範囲で調整します。

2 LOW CUT ボタン

40Hz、12dB/oct のハイパスフィルターを入力に挿入します。動作中は赤色の LED が点灯します。

3 LOW/MID XOVER FREQ つまみ

低域バンド (LOW) と中域バンド (MID) を分けるクロスオーバー周波数を設定します。

4 × 10 LED

背面パネルの周波数レンジ切り替えボタンの状態が表示されます。この緑色の LED が点灯している時は、LOW/MID つまみで調整されるクロスオーバー周波数の範囲は 450Hz ~ 9.6kHz となります。

13 MID/HIGH XOVER FREQ つまみ

中域バンド (MID) と高域バンド (HIGH) を分けるクロスオーバー周波数を設定します。

14 × 10 LED

背面パネルの周波数レンジ切り替えボタンの状態が表示されます。この緑色の LED が点灯している時は、MID/HIGH つまみで調整されるクロスオーバー周波数の範囲は 450Hz ~ 9.6kHz となります。

5 LOW OUTPUT GAIN つまみ

低域バンド (LOW) の出力レベルを $-\infty$ (−無限大) ~ +6dB で調整します。

6 INV ボタン

ボタンを押すと低域バンド (LOW) の出力の極性が逆相になります。動作中は赤色の LED が点灯します。

15 MID OUTPUT GAIN つまみ

中域バンド (MID) の出力レベルを $-\infty$ (−無限大) ~ +6dB で調整します。

16 INV ボタン

ボタンを押すと中域バンド (MID) の出力の極性が逆相になります。動作中は赤色の LED が点灯します。

17 HIGH OUTPUT GAIN つまみ

高域バンド (HIGH) の出力レベルを $-\infty$ (−無限大) ~ +6dB で調整します。

18 INV ボタン

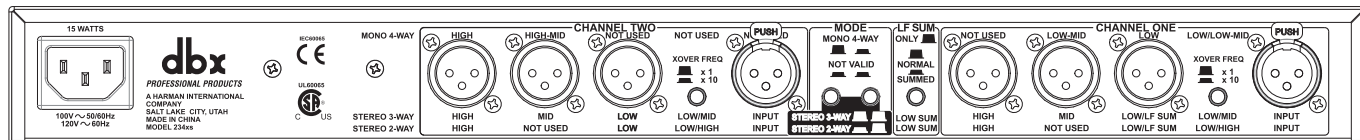
ボタンを押すと高域バンド (HIGH) の出力の極性が逆相になります。動作中は赤色の LED が点灯します。

9 MONO LED

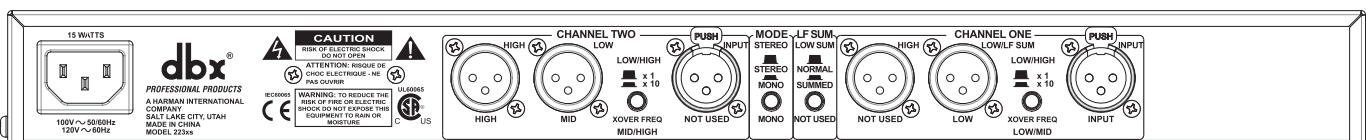
モノラルモード時、この LED が黄色に点灯します。

■背面パネルと基本的な接続方法

234XS 背面パネル



223XS 背面パネル



背面パネルにあるモードボタンにより動作モードを設定します。234XS には 3 つのモードが、223XS には 2 つのモードがあります。システムと合わないクロスオーバーのモードに設定にしたり、動作中に誤ってモード切り替えボタンを押してしまうとシステムに損傷を与える恐れがありますので、モード切り替えボタンの操作は十分注意して行ってください。それでは設定手順を説明します。

- スピーカーに添付されているパワーアンプとの接続方法を記載した資料を用意します。パワーアンプとの接続はスピーカーメーカーの指定する方法に従ってください。不適切な接続を行った場合、機器に損傷を与える恐れがあります。
- 信号や電源は接続せずに、まず 234XS、223XS の動作モードを選択します。234XS にはステレオ 2 ウェイ、ステレオ 3 ウェイ、モノラル 4 ウェイの 3 つのモードが、223XS にはステレオ 2 ウェイ、モノラル 3 ウェイの 2 つのモードがあります。
- スピーカーに添付されている資料を参照して、指定されているとおりにクロスオーバーの周波数を設定します。
- 234XS のモード設定ボタンには NOT VALID (無効) とされている設定 (両方のボタンを押した状態) があります。絶対にこの状態には設定しないでください。

適切なモードに設定したら、次に音声信号との接続を行います。

234XS の背面パネルにある入出力端子には、3 つのモードそれぞれでの入出力の関係がわかるような表示があります。234XS のステレオ 3 ウェイモード用の各端子と入出力の関係は端子下部、上段に表示されています。ステレオ 2 ウェイモード用は端子下部、下段の表示を使用します。モノラル 4 ウェイモードでは端子上部にある表示となります。NOT USED と表示されている端子はそのモードでは使用しません。

223XS の背面パネルにある入出力端子の位置関係は 234XS と同様で、ステレオ 2 ウェイモード用の入出力端子は端子上部の表示、モノラル 3 ウェイモード用は端子下部の表示となります。NOT USED と表示されている端子はそのモードでは使用しません。

音声機器の接続

- 本機に接続する前に、電源が切れていることを確認します。
- 本機に対して信号の送り側となる機器 (イコライザー、コンプレッサー、ミキサーなど) の電源が切れていることを確認して、送り側機器の出力を 234XS、223XS の入力に接続します。差し間違えないように端子の入出力表示に注意してください。
- パワーアンプの電源が切れていることを確認します。234XS、223XS の適切な出力をパワーアンプの入力に接続します。

電源の接続

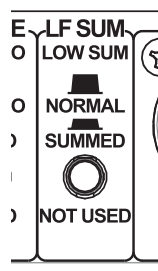
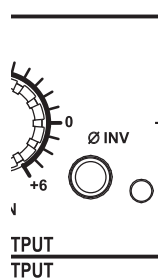
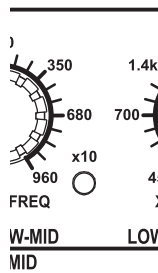
本機には AC100V、50/60Hz の電源を供給します。まず電源ケーブルを接続し、その後プラグをコンセントへ差します。

電源ケーブルを接続して電源を入れたら (本機に電源スイッチはありません)、まず信号の送り側となる機器の電源を入れます。次にパワーアンプのボリュームを完全に下げた状態で、パワーアンプの電源を入れてください。その後、信号の送り側となる機器のボリュームを通常レベルに上げ、234XS、223XS に信号を送ったら、パワーアンプのボリュームをゆっくりと上げて適当な音量にし、システムの調整を行います。

■背面パネルと基本的な接続方法 つづき

クロスオーバー周波数×10 ボタン

ステレオ 2 ウェイないし 3 ウェイモードを使用する時、960Hz を超える周波数でクロスオーバーさせるような場合も考えられます。その場合には〈×10〉ボタンを押して通常 45Hz～960Hz であるクロスオーバー周波数の範囲を 450Hz～9.6kHz に切り替えてください。このボタンを押しても他のバンドの周波数範囲は変わりません。この〈×10〉ボタンを操作する前には必ず関係するパワーアンプの電源を切るか、ボリュームを完全に下げてください。不用意に〈×10〉ボタンを押すとスピーカーに適合しない周波数の信号を出力し、スピーカーが損傷する恐れがありますので、ご注意ください。



INV ボタン

全ての出力には、極性を反転させる〈INV〉ボタンが備えられています。スピーカーの極性が合っていない場合、特に低域で周波数特性に乱れを生じます。また位相の揃わない信号は高域においては櫛型フィルター状の特性を生じさせることもあります。このボタンは音響システムを調整して最高の性能を引き出そうとする時にとっても有効です。このボタンを使用して出力の極性を反転させている時、前面パネルの LED が赤色に点灯します。

LF SUM

両チャンネルの低域の信号を足し合わせる機能のボタンで、モノラルのサブウーファーを使用する際に便利です。このボタンを押すと両チャンネルの低域バンド (LOW) の入力信号が足し合わされ、チャンネル 1 の LF SUM と表示された端子から出力されます。この時チャンネル 2 の LOW 出力は使用されなくなり、チャンネル 2 の INV LED も点灯しなくなります。この出力には左右のチャンネルの全低域が含まれますが、低域は無指向の性質を持っているため、原音のステレオイメージを大きく損なうことはありません。

ラックマウント

本機は標準 19 インチラックに簡単に取り付けることができます。取り付けに際しては大きなトランスやモーターの近くは避けてください。電源は隣接するコンセントから取り、電源ケーブルは音声信号ケーブルと離すようにします。電源ケーブルと音声信号ケーブルを交差させなければならない場合には、交差する角度が直角になるようにするとよいでしょう。

234XS、223XS の入出力はバランスです。アンバランスケーブルを使って接続することもできます。アンバランス機器と接続する場合でも、特に長い距離を接続する時には入出力の接続ケーブルはバランス接続とすることをおすすめします。2 芯のシールド付ケーブルを用いれば、信号の接続に関してシールドに依存することがなくなり、信頼性を高めることができます。万一シールドの接続が損なわれても、ノイズやハムが多少増加するだけで済みます。

■トラブルシューティング

音が出ない

まず、電源が入っていることを確認します。

- 前面パネルの STEREO もしくは MONO LED が点灯しているか確認します。電源が入っていればいずれかが点灯しています。
- 点灯していない場合には、電源ケーブルが背面パネルの電源コネクターに正しく接続されているか、電源プラグがコンセントに差さっているかを確認します。

電源が入っている場合

- 入出力ケーブルが正常であるか確認します。
- 入出力ゲインつまみが十分なレベルに上げられていることを確認します。
- パワーアンプのボリュームが上げられていることを確認します。

異常な出力音

- 背面のモードボタンが適切なモードに選ばれていることを確認します。
- LOW SUM ボタンを確認します。
- クロスオーバー周波数×10 ボタンを確認します。このボタンを押すとクロスオーバー周波数の設定範囲は通常の 45Hz ~ 960Hz から 450Hz ~ 9.6kHz へと切り替わります。

出力レベルが低い、あるいは歪んでいる

- ノイズの乗っていない、きれいな信号が入力されているかを確認します。
- 入力ケーブルの配線が間違っていないかを確認します。
- システムの全機器の音声信号のグラウンド、シャーシや電源のアースが正しく接続されていることを確認します。

■仕様

音声入力	端子・形式 XLR、電子バランス インピーダンス 50k Ω
最大レベル	+ 21dBu(234XS)、+ 22dBu(223XS)
音声出力	端子・形式 XLR、電子バランス インピーダンス 60 Ω 最大レベル + 20dBu
周波数特性	3Hz ~ 90kHz (+ 0/ - 3dB)
THD + N	0.004% (+ 4dBu, 1kHz)
ダイナミックレンジ	106dB (ウェイト無し)
電源	AC100V、50/60Hz、15W
寸法・質量	234XS :幅 483 ×高 45 ×奥行 175mm、1.8kg 223XS :幅 483 ×高 45 ×奥行 175mm、1.7kg

ハムノイズ

グラウンドループによりハムノイズを発生している可能性がある場合

- 信号系統ごとに音声のグラウンド(シールド)の接続を切り替えて、音の変化を聞き取ります。
- 上記作業中、電源コンセントのアースは外さず、シャーシグラウンドはアースに接続したままにしてください。

ハムの発生原因がグラウンドループ以外と考えられる場合

- クロスオーバー前段に置かれている機器の信号の状態を確認します。
- 誘導ハムを避けるため低レベルの出力の機器はパワーアンプから離して設置してください。
- スピーカーケーブル以外の信号ケーブルはシールドが施されたものを使用してください。低レベルの信号を扱うケーブルは電源ケーブルの近くを通らないようにします。

信号がとぎれる

- クロスオーバー前段の機器で信号のとぎれがないかを確認します。
- テスタを使用してケーブルに不良箇所がないかを確認してください。



●商品写真やイラストは、実際の商品と一部異なる場合があります。●掲載内容は発行時のもので、予告なく変更されることがあります。変更により発生したいかなる損害に対しても、弊社は責任を負いかねます。●記載されている商品名、会社名等は各社の登録商標、または商標です。

HIBINO

<http://www.hibino.co.jp/>
E-mail: proaudiosales@hibino.co.jp

ヒビノ株式会社 ヒビノプロオーディオセールス Div.

営業部

〒108-0075 東京都港区港南3-5-12
TEL: 03-5783-3110 FAX: 03-5783-3111

札幌オフィス

〒063-0813 北海道札幌市西区琴似三条1-1-20
TEL: 011-640-6770 FAX: 011-640-6776

大阪ランチ

〒564-0051 大阪府吹田市豊津町18-8
TEL: 06-6339-3890 FAX: 06-6339-3891

名古屋オフィス

〒450-0003 愛知県名古屋市中村区名駅南3-4-26
TEL: 052-589-2712 FAX: 052-589-2719

福岡ランチ

〒812-0041 福岡県福岡市博多区吉塚4-14-6
TEL: 092-611-5500 FAX: 092-611-5509